

また、FAB、MMSE、serial7、VES-13、PHQ-9に関して、独立2群のt検定を実施したところ、FAB、MMSE、VES-13について有意差を認めた(表3)。

(表3)

項目	Patients without capacity (n = 27)	Patients with capacity (n = 87)	P
VES-13 (平均)	3.1 ± 2.9	1.5 ± 1.5	0.002
4点以上	8 (29.6%)	5 (5.7%)	
3点以下	19 (70.4%)	82 (94.3%)	
PHQ-9	6.19	6.22	0.97
MMSE-J	25.0 ± 4.6	27.5 ± 2.4	0.01
27-30	12 (44.4%)	62 (71.3%)	0.018
21-26	13 (48.1%)	24 (27.6%)	
0-20	2 (7.4%)	1 (1.1%)	
FAB	12.3 ± 3.3	14.7 ± 2.5	0.03

治療同意能力障害との関連要因を、P<0.2の関連要因を強制投入して検討したところ、教育歴と全般的認知機能(MMSE)の関連を認めた。

(表4)

項目	OR	P
教育歴	3.15 (1.09-9.10)	0.034
高卒未満	1.0	
高卒以上		
Performance Status	1.58 (0.51-4.86)	0.43
≥ 1	1.0	
0		
オピオイド	1.74 (0.55-5.51)	0.35
有	1.0	
無		
MMSE	5.03 (1.23-20.7)	0.025
≤ 23	1.0	
≥ 24		

治療同意能力障害の有無について、MacCAT-Tの評価結果を求めたところ、理解と認識、論理的思考において有意差を認めた。

D. 考察

がん患者の治療方針決定時において、患者の治療同意能力を構造化面接で評価をする計画を立てた。解析の結果、24%に何らかの意思

決定能力の障害を認めた。障害は、全般的認知機能(MMSE)および教育歴との関連を認めた。

治療同意能力の障害は、脳転移やPerformance Status、stageとの関連は認めなかった。また、脳器質疾患との関連では、転移性脳腫瘍の有無とも関連はなく、また精神症状としては抑うつとは関係は認めなかった。上記結果より、臨床において、治療同意能力の評価を考慮に入れる場合、全般的認知機能検査を実施することは障害の有無を推測するのに有用である示唆を得た。

E. 結論

がん患者の治療方針決定時において、患者の治療同意能力を評価した。治療方針決定時にすでに障害を認めるケースを24%に認めた。今後、障害がある場合でも意思決定が可能となる支援技法の開発を検討する必要がある。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Shirai, Y., Ogawa, A., Uchitomi, Y., et al : Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial. *Psychooncology*. 21(7): 706-13, 2012
2. Ogawa, A., Uchitomi, Y., et al: Availability of Psychiatric Consultation-liaison Services as an Integral Component of Palliative Care Programs at Japanese Cancer Hospitals. *Jpn J Clin Oncol*. 42(1): 42-52, 2012
3. Shimizu K, Akechi T., Ogawa, A., Uchitomi Y., et al: Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. *Ann Oncol*. 23(8): 1973-9, 2012
4. 上山栄子, 小川朝生, 他: 反復経頭蓋磁気刺激によるラット海馬における神経細胞新生の増加. *精神神経学雑誌*, 114(9): 1018-1022. 2012

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 5. 松本禎久、<u>小川朝生</u>：がん患者の症状緩和． Modern Physician. 32(9)：1109-1112, 2012 6. <u>小川朝生</u>：がん患者の精神心理的ケアの最大の問題点．がん患者ケア. 5(3)：55, 2012 7. <u>小川朝生</u>：がん患者に見られるせん妄の特徴と知っておきたい知識．がん患者ケア. 5(3)：56-60, 2012 8. <u>小川朝生</u>：悪性腫瘍(がん)．精神看護. 15(4)：76-79, 2012 | <p>H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 特許取得
なし。 2. 実用新案登録
なし 3. その他
特記すべきことなし。 |
|--|--|

学会発表

- 1. 小川朝生. 医療者育成. 第25回日本総合病院精神医学会総会. 2012. 11. 大田区（シンポジウム演者）
- 2. 小川朝生. がん患者の有症率・相談支援のニーズとバリアに関する多施設調査. 第50回日本癌治療学会学術集会. 2012. 10. 25. 横浜（ポスター）
- 3. 小川朝生. がん診療におけるせん妄. 第6回日本緩和医療薬学会年会. 2012. 10. 7. 神戸市（シンポジウム演者）
- 4. 小川朝生. Cancer Specific Geriatric Assessment (CSGA) 日本語版の開発. 第77回大腸がん研究会. 2012. 7. 6. 港区（口演演者）
- 5. 小川朝生. 緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（シンポジウム座長）
- 6. 小川朝生. 緩和ケアにおける介入エビデンス. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（シンポジウム演者）
- 7. 小川朝生. 患者が意思決定できないときの対応. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（パネルディスカッション演者）
- 8. 小川朝生. 臨床心理士へのサイコオンコロジー教育. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市.（シンポジウム座長）
- 9. 小川朝生. 高齢者のサイコオンコロジー. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市.（シンポジウム演者）
- 10. 小川朝生. がん相談支援センターとサイコオンコロジーとの連携. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市.（シンポジウム座長）

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

高齢がん患者における心身の状態の包括的評価方法に関する研究

研究分担者 奥山 徹 名古屋市立大学大学院医学研究科

研究要旨 高齢がん患者の急増にも関わらず、高齢がん患者に相応しい医療やケアのあり方に関する知見は乏しい。本研究の目的は、VES-13 が我が国の高齢がん患者の脆弱性スクリーニングに有用な方法であるかどうかを検討することである。新規に悪性リンパ腫または多発性骨髄腫と診断された 65 歳以上のがん患者に対して、抗がん治療開始前に VES-13 を実施し、併せて日常生活活動度、抑うつ、認知機能障害などを含む包括的評価を行った。その結果、72 名より有効データを得た。包括的評価の結果、40%の患者が脆弱性群の定義に相当した。VES-13 による脆弱性スクリーニング能力を検討したところ、2/3 点において感度 0.87、特異度 0.68、陽性尤度比 6.0(95%CI: 2.5-14.7)、ROC 曲線下面積 0.88 であった。日本語版 VES-13 は、海外での報告と同程度のスクリーニング能力を有していることが示唆されたが、より精度高いスクリーニングのためには、他の評価方法と組み合わせて使用することなどの検討も必要と思われた。

A. 研究目的

高齢がん患者の急増にも関わらず、高齢がん患者に相応しい医療やケアのあり方に関する知見は乏しい。高齢者は抗がん治療の副作用などに脆弱であることも多いことから、身体機能、精神・認知機能などに関する包括的評価を行うことで、そのような脆弱性を有する患者を同定する試みがされるようになってきているが、そのような複雑な評価を日常臨床で実施することは困難を伴う。Vulnerable Elders Survey (VES-13)は、そのような患者のスクリーニングツールのひとつである。海外ではその有用性が実証されており、高齢者治療ガイドラインなどでもその使用が推奨されている。本研究の目的は、VES-13 がわが国の高齢がん患者の脆弱性スクリーニングに有用な評価方法であるかどうかを検討することである。

B. 研究方法

名古屋市立大学病院に入院となった、新規に悪性リンパ腫または多発性骨髄腫と診断された 65 歳以上のがん患者とする。研究対象候補者を連続的にサンプリングして適格評価を行い、適格患者に対して、抗がん治療開始前に VES-13 を実施し、併せて身体的機能、抑うつ、認知機能障害などに関する包括的評価を行った。

・Vulnerable Elders Survey (VES-13)

VES-13 は、高齢者における脆弱性を評価するために開発された 13 項目からなる自記式の質問票である。海外の研究では 2/3 点が脆弱性スクリーニングのためのカットオフポイントとされている。本研究において Forward-backward translation 法を用いて日本語版を作成した。

・日常生活動作(ADL)、手段的日常生活動作(IADL)

Barthel Index によって ADL を、Lawton Index によって IADL を評価した。Barthel Index では 90 点以下、Lawton Index では 3 点以下を障害ありとした。

・合併症

Cumulative Illness Rating Scale for Geriatrics (CIRS-G) という尺度を用いて評価を行った。14 領域について 5 段階で各領域の重症度を評価するもので、総得点を問題が存在していた領域の数で除した値を重症度指数とし、2 点以上を障害ありとした。

・栄養状態

Body Mass Index 18.5 未満または 25 以上を障害ありとした。

・抑うつ

Patient Health Questionnaire 9(PHQ-9) という自記式質問票を用いて評価した。

本尺度は、うつ病のスクリーニング及び重

症度評価を行うための自記式質問票であり、抑うつ症状を尋ねる9項目と、気持ちの問題による日常生活への支障を問う1項目からなる。各症状について直近2週間にどの程度の頻度で症状が出現するかを問うており、「半分以上」または「ほとんど毎日」という回答が5項目以上であった場合を障害ありとした。

・認知機能障害

Mini Mental Status Examination (MMSE) という他者評価尺度を用いた。見当識、短期及び長期記憶、計算、語想起、空間認識などを問う質問からなり、5-10分程度で実施可能である。低得点ほど認知機能障害が重篤であることを示す。24点未満を障害ありとした。

・脆弱性

ADL・IADL、合併症、栄養状態、身体的機能、抑うつ気分、認知機能障害の6項目のうち2項目以上で障害がある場合を脆弱性ありと定義した。

(倫理面への配慮)

本研究は当院倫理審査委員会の承認を得て行った。本研究への協力は個人の自由意思によるものとし、本研究に同意した後でも随時撤回可能であり、不参加・撤回による不利益は生じないことを文書にて説明した。また、得られた結果は統計学的な処理に使用されるもので、個人のプライバシーは厳重に守られる旨を文書にて説明した。本研究への参加に同意が得られた場合は、同意書に参加者本人からの署名を得た。また同意能力がないと判断される場合は、患者から口頭での同意と代諾者からの文書による同意を得た。

C. 研究結果

2012年12月末までに106名の適格性評価を行い、26名が不適格、8名が拒否であり、72名(68%)より有効データを得た。平均年齢は74歳、男性42名(58%)、診断は悪性リンパ腫が54名(75%)、多発性骨髄腫が18名(25%)であった。診断時のECOG PSが2または3である患者は20名(28%)であった。

包括的評価の結果、40%の患者が脆弱性群の定義に相当した。VES-13による脆弱性スクリーニング能力は、2/3点において感度0.87、特異度0.68、陽性尤度比6.0(95%CI: 2.5-14.7)、ROC曲線下面積0.88であった。

D. 考察

65歳以上の診断直後の悪性リンパ腫、多発性骨髄腫患者において、脆弱性の定義に相当する患者は40%と高頻度であった。

脆弱性を有する高齢がん患者のスクリーニングに関する系統的レビューによると、海外

でのVES-13のスクリーニング能力は感度の中央値68%、特異度の中央値78%であった。よって本研究結果は、日本語版VES-13が海外での報告とほぼ同程度のスクリーニング能力を有していることを示している。一方で、臨床的には十分なスクリーニング能力を有しているとはいいがたく、今後データをより詳細に検証し、さらに有用性を高めるために他の評価方法と組み合わせる使用することなどの検討も必要と思われる。

E. 結論

日本語版VES-13は、脆弱性評価を要するような高齢がん患者のスクリーニングについて、海外での報告と同程度のスクリーニング能力を有していることが示唆された。さらに有用性を高めるために他の評価方法と組み合わせる使用することなどの検討も必要と考えた。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Nakaguchi T, Okuyama T, Akechi T, et al: Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy. *Jpn J Clin Oncol.* (in press)
2. Hirai K, Okuyama T, Akechi T, et al: Problem-Solving Therapy for Psychological Distress in Japanese Early-stage Breast Cancer Patients. *Jpn J Clin Oncol.* 2012 Dec;42(12):1168-74
3. Akechi T, Okuyama T, et al: Clinical Indicators of Depression among Ambulatory Cancer Patients Undergoing Chemotherapy. *Jpn J Clin Oncol.* 2012 Dec;42(12):1175-80
4. Kishi Y, Okuyama T, et al: Treatment of delirium with risperidone in cancer patients. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2012 Aug;66(5):411-7
5. Akechi T, Okuyama T, et al: Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients. *Palliat Med.* 2012

- Jul;26(5):768-9
6. Akechi T, Okuyama T, et al : Perceived needs, psychological distress and quality of life of elderly cancer patients. Jpn J Clin Oncol. 2012 Aug;42(8):704-10
 7. Akechi T, Okuyama T, et al : Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population. J Am Geriatr Soc. 2012 Feb;60(2):271-6
2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

学会発表

1. Sugano K, Okuyama T, Akechi T, et al: Experience of Death Conference at General Hospital Setting in Japan. 14th World Congress of Psycho-Oncology (Brisbane) November 13-15, 2012
 2. Akechi T, Morita T, Okuyama T, Uchitomi Y, et al: Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population. 14th World Congress of Psycho-Oncology (Brisbane) November 13-15, 2012
 3. Uchida M, Okuyama T, Akechi T, et al: Prevalence, associated factors of delirium and its course in advanced cancer patients. 14th World Congress of Psycho-Oncology (Brisbane) November 13-15, 2012
 4. 内田恵、奥山徹、明智龍男、他: 進行がん患者におけるせん妄の頻度、関連因子、経過. 第25回日本総合病院精神医学会総会, 2012年11月, 東京
 5. 中口智博、奥山徹、明智龍男、他: 化学療法中のがん患者の支持的ケアニーズ、身体症状、精神症状を看護師は正確に評価できているか? 第25回日本サイコオンコロジー学会総会, 2012年9月, 福岡
 6. 内田恵、奥山徹、明智龍男、他: 進行がん患者におけるせん妄の頻度、関連因子、経過. 第25回日本サイコオンコロジー学会総会, 2012年9月, 福岡
- H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）
1. 特許取得
なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Okamura H	Psychological impact and associated factors after disclosure of genetic test results concerning hereditary nonpolyposis colorectal cancer	Ettarh R	Colorectal Cancer - From Prevention to Patient Care	InTech	Croatia	2012	88-100
Okamura H	Rehabilitation of elderly people with dementia	Wu J	Biomedical Engineering and Cognitive Neuroscience for Healthcare: Interdisciplinary Applications	IGI Global	Pennsylvania	2012	235-242
Ando M, Morita T	How to Conduct the Short-Term Life Review Interview for Terminally Ill Patients.	Lancaster AJ, Sharpe O	Psychotherapy New Research	NOVA Science Publishers	US	101-108	2012

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
明智龍男	緩和ケアと抑うつが ん患者の抑うつの評価 と治療	「精神科治療学」編集委員会	気分障害の治療ガイドライン	星和書店	東京	2012	258-262
明智龍男	がん患者の心のケア- サイコオンコロジーの 役割	NHKラジオ あさいちばん	NHKラジオあ さいちばん	NHKサー ビスセン ター	東京	2012	100-110
明智龍男	緩和ケアに関する学会 などについての情報- 日本サイコオンコロジ ー学会、日本総合病院 精神医学会	日本ホスピ ス・緩和ケ ア研究振興 財団	ホスピス緩和 ケア白書2012	日本ホス ピス・緩 和ケア研 究振興財 団	東京	2012	71-73
明智龍男	がん患者の自殺、希死 念慮	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	創造出版	東京	2012	75-87
明智龍男	精神療法	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	創造出版	東京	2012	167-184
井上真一郎, 内富庸介	B. サイコオンコロジー	日本乳癌学 会	乳腺腫瘍学	金原出版 株式会社	東京	2012	325-330

内富庸介	サイコオンコロジー領域における抗うつ薬の役割	小山司/監修	Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー	先端医学社	東京	2012	7-12
井上真一郎, 内富庸介	⑥緩和医療におけるせん妄症例B	八田耕太郎、岸泰宏	病棟・ICUで出会うせん妄に診かた	中外医学社	東京	2012	153-167
寺田整司, 内富庸介	認知症を伴う糖尿病性腎症患者のケーススタディ	榎野博史	糖尿病×CKD 診療ガイドQ&A	南山堂	東京	2012	167-168
日本総合病院精神医学会がん対策委員会(監修)		小川朝生/内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	1-333
岡村 仁	再発・転移していることがわかりました. どのように気持ちを整理したらよいですか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	134-135
岡村 仁	家族(夫・子ども)とどう向き合えばよいのでしょうか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	153-154
岡村 仁	抗がん剤(化学療法薬)やホルモン剤によってうつになることはありますか	日本乳癌学会	2012年版 患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版株式会社	東京	2012	161-162
田村恵子, 森田達也, 他		田村恵子, 森田達也, 他	看護に活かすスピリチュアルケアの手引き.	青海社	東京	2012	
森田達也	55緩和医療 1. 疼痛緩和と終末期医療.	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学改訂第3版.	南江堂	東京	2012	673-682
小川朝生	精神腫瘍学コンサルテーションこれだけは	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	21-28
小川朝生	不穏	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	71-74
小川朝生	せん妄	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	88-104
小川朝生	認知症	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	105-112
小川朝生	神経症状けいれん発作、末梢神経障害	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	145-55

小川朝生	緩和ケアチーム	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ク リニカルエッ センス	社会福祉 法人新樹 会創造出 版	東京	2012	262-274
小川朝生	緩和ケアチームに携わ る精神症状緩和担当医 師の現状調査	(公財)日本 ホスピス・ 緩和ケア研 究振興財団 「ホスピス 緩和ケア白 書」編集委 員会	ホスピス緩和 ケア白書2012	(公財)日 本ホスピ ス・緩和 ケア研究 振興財団	東京	2012	46-51
小川朝生	がん等による慢性疼痛 時のうつ病診察のコツ と処方例	中尾睦宏、 伊藤弘人	日常診療にお けるうつ病治 療指針	医薬ジャ ーナル社	東京	2012	135-148

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akechi T, et al.	Clinical Indicators of Depression among Ambulatory Cancer Patients Undergoing Chemotherapy	Jpn J Clin Oncol	42	1175-1180	2012
Akechi T, et al.	Perceived needs, psychological distress and quality of life of elderly cancer patients	Jpn J Clin Oncol	42	704-710	2012
Akechi T.	Psychotherapy for depression among patients with advanced cancer	Jpn J Clin Oncol	42	1113-1119	2012
Yamada A, Akechi T, et al.	Quality of life of parents raising children with pervasive developmental disorders	BMC Psychiatry	Aug 20;12	119	2012
Watanabe N, Akechi T, et al.	Deliberate self-harm in adolescents aged 12-18: a cross-sectional survey of 18,104 students	Suicide Life Threat Behav	42	550-560	2012
Shimodera S, Akechi T, et al.	The first 100 patients in the SUN(^_^)D trial (strategic use of new generation antidepressants for depression): examination of feasibility and adherence during the pilot phase	Trials	13	80	2012
Shimizu K, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y, et al.	Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project	Ann Oncol	23(8)	1973-1979	2012
Kinoshita K, Akechi T, et al.	Not only body weight perception but also body mass index is relevant to suicidal ideation and self-harming behavior in Japanese adolescents	J Nerv Ment Dis	200	305-309	2012

Hirai K, <u>Akechi T</u> , et al.	Problem-Solving Therapy for Psychological Distress in Japanese Early-stage Breast Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol	42	1168-1174	2012
Asai M, <u>Ogawa A</u> , <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients	Psychooncology	May 2	online	2012
Terada S, <u>Uchitomi Y</u> .	School refusal by patients with gender identity disorder.	Gen Hosp Psychiatry	34(3)	299-303	2012
Takeda N, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Creutzfeldt-Jakob disease with the M232R mutation in the prion protein gene in two cases showing different disease courses: a clinicopathological study.	J Neurol Sci	15;312(1-2)	108-16	2012
Saito-Nakaya K, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Stress and survival after cancer: a prospective study of a Finnish population-based cohort.	Cancer Epidemiol	36(2)	230-5	2012
Oshima E, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Frontal assessment battery and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease.	Int Psychogeriatr	24(6)	994-1001	2012
<u>Ogawa A</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Availability of psychiatric consultation-liaison services as an integral component of palliative care programs at Japanese cancer hospitals.	Jpn J Clin Oncol	42(1)	42-52	2012
Ishida M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychological Distress of the Bereaved Seeking Medical Counseling at a Cancer Center.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	506-12	2012
Asai M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan.	Support Care Cancer	20(12)	3189-203	2012
Yoshida, H. <u>Uchitomi Y</u> , et al	Validation of the revised Addenbrooke's Cognitive Examination (ACE-R) for detecting mild cognitive impairment and dementia in a Japanese population.	Int Psychogeriatr	24(1)	28-37	2012
Inoue S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	A case of adult-onset adrenoleukodystrophy with frontal lobe dysfunction: a novel point mutation in the ABCD1 gene.	Intern Med	51(11)	1403-6	2012
Yokoi T, <u>Okamura H</u> , et al	Conditions associated with wandering in people with dementia from the viewpoint of self-awareness: Five case reports	Am J Alzheimers Dis Other Demen	27	162-170	2012
Yokoi T, <u>Okamura H</u> , et al	Investigation of eating actions of people with dementia from the viewpoint of self-awareness	Am J Alzheimers Dis Other Demen	27	228-237	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts in the workplace	インターナショナル Nurs Care Res 11: 33-42	11	33-42	2012

Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the coping strategies of new female nurses who experienced violent language and violent acts from patients	インターナショナル Nurs Care Res	11	43-52	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts by patients	インターナショナル Nurs Care Res	11	83-92	2012
Niiyama E, <u>Okamura H</u>	Relationship between adult children property and self esteem of nursing students	インターナショナル Nurs Care Res	11	93-99	2012
Abe K, <u>Okamura H</u> , et al	Systematic review of rehabilitation intervention in palliative care for cancer patients	Jpn J Clin Oncol		2:131. doi:10.4172/2165-7386.1000131	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Providing palliative care for cancer patients: The views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan.	J Pain Symptom Manage	43(1)	59-67	2012
<u>Morita T</u> , et al	A region-based palliative care intervention trial using the mixed-method approach: Japan OPTIM study.	BMC Palliat Care	11(1)	2	2012
Igarashi A, <u>Morita T</u> , et al	A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: A potential new endpoint of cancer care.	J Pain Symptom Manage	43(2)	218-225	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Longitudinal follow-up study using the distress and impact thermometer in an outpatient chemotherapy setting.	J Pain Symptom Manage	43(2)	236-243	2012
<u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , <u>Okuyama T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population.	J Am Geriatr Soc	60(2)	271-276	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Pain intensity, quality of life, quality of palliative care, and satisfaction in outpatients with metastatic or recurrent cancer: a Japanese, nationwide, region-based, multicenter survey.	J Pain Symptom Manage	43(3)	503-514	2012
Nakazawa Y, <u>Morita T</u> , et al	The current status and issues regarding hospital-based specialized palliative care service in Japanese regional cancer centers: A nationwide questionnaire survey.	Jpn J Clin Oncol	42(5)	432-441	2012

Sato K, <u>Morita T</u> , et al	Family member perspectives of deceased relatives' end-of-life options on admission to a palliative care unit in Japan.	Support Care Cancer	20(5)	893-900	2012
Akiyama M, <u>Morita T</u> , et al	Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan.	Support Care Cancer	20(5)	923-931	2012
Choi JE, <u>Morita T</u> , et al	Making the decision for home hospice: perspectives of bereaved Japanese families who had loved ones in home hospice.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	498-505	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Effect of parenteral hydration therapy based on the Japanese national clinical guideline on quality of life, discomfort, and symptom intensity in patients with advanced cancer.	J Pain Symptom Manage	43(6)	1001-1012	2012
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Factors in narratives to questions in the short-term life review interviews of terminally ill cancer patients and utility of the questions.	Palliat Support Care	10(2)	83-90	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Development of a nationwide consensus syllabus of palliative medicine for undergraduate medical education in Japan: A modified Delphi method.	Palliat Med	26(5)	744-752	2012
<u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , <u>Okuyama T</u> , et al	Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients.	Palliat Med	26(5)	768-769	2012
Matsuo N, <u>Morita T</u> , et al	Physician-reported corticosteroid therapy practices in certified palliative care units in Japan: A nationwide survey.	J Palliat Med	15(9)	1011-1016	2012
Kaneishi K, <u>Morita T</u> , et al	Olanzapine for the relief of nausea in patients with advanced cancer and incomplete bowel obstruction.	J Pain Symptom Manage	44(4)	604-607	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Preferred place of care and place of death of the general public and cancer patients in Japan.	Support Care Cancer	20(10)	2575-2582	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Pros and cons of prognostic disclosure to Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	J Palliat Med	15(12)	1342-1349	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Recent developments in the management of cancer pain in Japan: Education, clinical guidelines and basic research.	Jpn J Clin Oncol	42(12)	1120-1127	2012

Kishi Y, <u>Okuyama T</u> , et al.	Treatment of delirium with risperidone in cancer patients	Psychiatry Clin Neurosci	66	411-7	2012
Shirai, Y., <u>Ogawa, A.</u> , et al	Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial.	Psychooncology	21	706-13	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	Palliat Support Care	Aug 23	[Epub ahead of pirnt]	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care	Sep 3	[Epub ahead of print]	2012
Kunieda K, <u>Morita T</u> , et al	Reliability and validity of a tool to measure the severity of dysphagia: The food intake LEVEL scale.	J Pain Symptom Manage	Nov 12	[Epub ahead of print]	2012
Shirado A, <u>Morita T</u> , et al	Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	Nov 15	[Epub ahead of print]	2012
Amano K, <u>Morita T</u> , et al	Effect of nutritional support on terminally ill patients with cancer in a palliative care unit.	Am J Hosp Palliat Care	Dec 12	[Epub ahead of pirnt]	2012
Nakaguchi T, <u>Okuyama T</u> , <u>Akechi T</u> , et al.	Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their cancer patients undergoing chemotherapy	Jpn J Clin Oncol			In press
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al.	A case of schizophrenia accompanied with lissencephaly	The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences			In press
Furukawa TA, <u>Akechi T</u> , et al.	CBT modifies the naturalistic course of social anxiety disorder: Findings from an ABA design study in the routine clinical practices	Pschiatry and Clinical Neuroscience			In press
Miki E, <u>Okamura H</u> , et al	Clinical usefulness of the Frontal Assessment Battery at bedside (FAB) for elderly cancer patients	Support Care Cancer			in press
Yokoi T, <u>Okamura H</u>	Why do dementia patients become unable to lead a daily life with decreasing cognitive function?	Dementia			in press

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
明智龍男	メント・モリ	精神医学	54	232-233	2012
明智龍男	がん終末期の精神症状のケア	コンセンサス癌治療	10	206-209	2012
矢野智宣, 内富庸介	周術期のせん妄の診断と治療術前からリスク因子に対応し、必要に応じて薬物治療を	Life Support and Anesthesia	19(2)	144-8	2012
藤原雅樹, 内富庸介, 他	うつ状態に対するlamotrigineの急性効果の検討	臨床精神薬理	15(4)	551-9	2012
内富庸介	がん患者の抑うつと薬物治療	臨床精神薬理	15(7)	1135-43	2012
内富庸介	がん医療においてサイコオンコロジスト築いてほしい心のケア体制	CLINICIAN	59	26-32	2012
内富庸介	がん医療におけるコミュニケーションスキル	造血細胞移植	24	2-3	2012
内富庸介	新規抗うつ薬	CLINICIAN	59(8)	14-7	2012
矢野智宣, 内富庸介, 他	うつ病を伴う口腔灼熱感症候群にpregabalinが有効であった1例	精神医学	54(6)	621-3	2012
内富庸介	がん患者の意思決定を支援する	Nurshing Today	27(5)	50-3	2012
内富庸介	悪い知らせを伝える際のコミュニケーション・スキルSHAREプロトコール	PSYCHIATRIST	17	5-22	2012
岡村 仁	がんのリハビリテーションチームで行う緩和ケア：心のケアとリハビリテーション.	MEDICAL REHABILITATION	140	37-41	2012
岡村 仁	がん患者のリハビリテーション：心のケアとリハビリテーション.	がん看護	17	751-753	2012
花岡秀明, 岡村 仁, 他	地域ボランティア活動の有効性に関する予備的検討－回想法グループへの参加を通して	作業療法ジャーナル	46	292-296	2012
古村和恵, 森田達也, 他	市民の緩和ケアに対するイメージの変化.	緩和ケア	22(1)	79-83	2012
福本和彦, 森田達也, 他	オピオイド新規導入タイトレーションパスががん疼痛緩和治療に与える影響.	癌と化学療法	39(1)	81-84	2012
佐藤泉, 森田達也, 他	在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価.	訪問看護と介護	17(2)	155-159	2012
井村千鶴, 森田達也, 他	患者・遺族調査の結果に基づいた緩和ケアセミナーの有用性.	ペインクリニック	33(2)	241-250	2012

森田達也	医療羅針盤 私の提言(第50回) 地域緩和ケアを進めるためには「顔の見える関係」を作ることが大切である.	新医療	39(3)	18-23	2012
井村千鶴, 森田達也, 他	地域で行うデスカンファレンスの有用性と体験.	緩和ケア	22(2)	189-194	2012
森田達也	がん性疼痛に対する鎮静薬の副作用対策.	コンセンサス癌治療	10(4)	192-195	2012
森田達也	緩和ケアチームの活動とOPTIMの成果.	Credentials	44	9-11	2012
鄭陽, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第1回WHO step II オピオイド:弱オピオイドの使用、WHO step III オピオイド: オピオイドの第1選択.	緩和ケア	22(3)	241-244	2012
森田達也, 他	地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(1)	121-135	2012
古村和恵, 森田達也, 他	迷惑をかけてつらいと訴える終末期がん患者への緩和ケア—遺族への質的調査からの示唆.	Palliat Care Res	7(1)	142-148	2012
市原香織, 森田達也, 他	看取りのケアにおけるLiverpool Care Pathway日本語版の意義と導入可能性—緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディ.	Palliat Care Res	7(1)	149-162	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること.	Palliat Care Res	7(1)	163-171	2012
森田達也, 他:	在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排他的か?.	Palliat Care Res	7(1)	317-322	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か?.	Palliat Care Res	7(1)	323-333	2012
山田博英, 森田達也, 他	患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」.	Palliat Care Res	7(1)	342-347	2012
前堀直美, 森田達也, 他	外来患者のがん疼痛に対する保険薬局薬剤師の電話モニタリング・受診前アセスメントの効果.	ペインクリニック	33(6)	817-824	2012
森田達也	臨床診断より優れた進行がん患者の予後予測モデル 開発予測モデルの再現性は未確認.	MMJ	8(2)	102-103	2012
森田達也	日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第10回年次大会から. 緩和ケア地域介入研究<OPTIM-study>が明らかにしたこと: 明日への示唆.	Best Nurse	23(7)	6-15	2012
岩崎静乃, 森田達也, 他	終末期がん患者の口腔合併症の向き観察研究.	緩和ケア	22(4)	369-373	2012

小田切拓也, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第2回オピオイドのタイトレーション オピオイドの経皮製剤の役割.	緩和ケア	22(4)	346-349	2012
大野友久, 森田達也, 他	入院患者における口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の臨床効果に関する研究.	癌と化学療法	39(8)	1233-1238	2012
今井堅吾, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第3回 1オピオイドによる嘔気・嘔吐に対する治療, 2オピオイドによる便秘に対する治療, 3オピオイドによる中枢神経症状に対する治療.	緩和ケア	22(5)	428-431	2012
森田達也	緩和ケア領域における臨床研究: 過去、現在、未来.	腫瘍内科	10(3)	185-195	2012
木下寛也, 森田達也, 他	がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題.	癌と化学療法	39(10)	1527-1532	2012
森田達也	クローズアップ・がん治療施設(28) 聖隷三方原病院 腫瘍センター・緩和ケア部門.	臨床腫瘍プラクティス	8(4)	415-417	2012
鄭陽, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第4回1. アセトアミノフェンとNSAIDsの役割. 2. 鎮痛補助薬の役割. 3. 腎機能障害のある患者へのオピオイドの使用.	緩和ケア	22(6)	522-525	2012
木澤義之, 森田達也, 他	地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	172-184	2012
山本亮, 森田達也, 他	看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパンフレット』の有用性: 多施設研究.	Palliat Care Res	7(2)	192-201	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	209-217	2012
木下寛也, 森田達也, 他	がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響.	Palliat Care Res	7(2)	348-353	2012
森田達也, 他	異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較.	Palliat Care Res	7(2)	374-381	2012
森田達也, 他	患者所持型情報共有ツール「わたしのカルテ」の評価: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	382-388	2012
白髭豊, 森田達也, 他	OPTIMプロジェクト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化.	Palliat Care Res	7(2)	389-394	2012
森田達也, 他	遺族調査に基づく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数.	Palliat Care Res	7(2)	403-407	2012

上山栄子、 <u>小川朝生</u> 、 他	反復経頭蓋磁気刺激によるラット 海馬における神経細胞新生の増加	精神神経学雑誌	114	1018-10 22	2012
松本禎久、 <u>小川朝生</u>	がん患者の症状緩和	Modern Physician	32	1109-11 12	2012
<u>小川朝生</u>	がん患者の精神心理的ケアの最大 の問題点	がん患者ケア	5	55	2012
<u>小川朝生</u>	がん患者に見られるせん妄の特徴 と知っておきたい知識	がん患者ケア	5	56-60	2012
<u>小川朝生</u>	悪性腫瘍（がん）	精神看護	15	76-79	2012

